

希望郷いわて国体における炬火採火イベントへの協力

今年度いわて国体が開催されることから、県内で様々なイベントが企画され、実施されています。そのような中、一関市役所まちづくり推進部 国体推進室から本校へ炬火採火イベントへの協力依頼がありました。

他の県で国体が開催される際にも同様の炬火採火イベントが行われており、多くは「マイギリ式」という方法が採用されています。しかしながら時間がかかるだけでなく、うまく火をおこすことができない場合も多いようです。また今回は夏祭りのイベントの一環としても行うことから、来場者が手軽に火を起こす方法が必要と判断されました。複数の方法による火起こしにより、「確実な採火」と「複数の火起こし体験によるイベント性」の確保を一関市役所が考案したため、マイギリ式以外の方法の提案およびその方法で実施する場合の協力依頼がありました。

そこで本校において協議した結果、アウトドア用品であるメタルマッチ・着火剤（参照URL <http://wtd-survival.co.jp/?pid=83669550>）を用いた方法を提案したところ採用されたため、イベント当日における来場者への対応も含めて行いました。本校の対応者は教員側は電気情報工学科 郷 富夫、物質化学工学科 福村 卓也、機械工学科 八戸 俊貴、若嶋 振一郎、技術専門職員側は三浦 正治、小岩 俊彦、協力学生は機械工学科3年 小岩 滉宜です。

イベントは8月6日（土）と8月16日（火）の2回開催され、場所はそれぞれ一関駅付近なのはなプラザ前と一関市川崎町 花火大会特設ステージで行われました。いずれの場合にも小中学生が多く参加し、実際に火おこしを体験することで興味関心を持っていたようでした。

